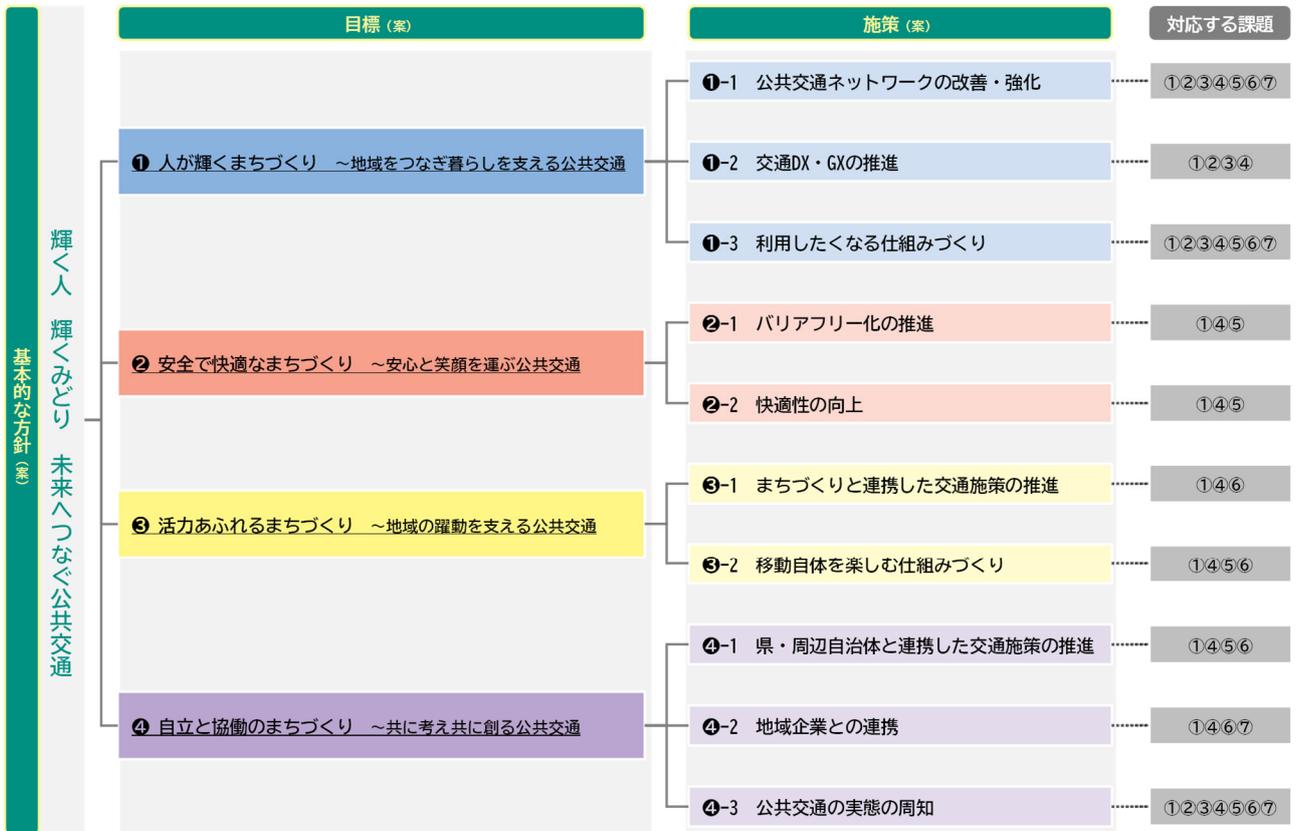


目標を達成するための施策

(1) 施策体系



(2) 事業内容

施策体系を踏まえ、以下の内容で事業内容を整理します。

表 事業内容表の見方

目標番号	目標名		
施策番号	施策名	対応する課題	課題番号
目的	●施策の目的を示します。		
背景・必要性	●施策の背景・必要性を示します。		
実施時期	●各事業の実施時期を示します。 ※次回協議会までに検討		

事業番号	事業	目標番号-施策番号-事業番号
概要・効果	●事業の概要・効果・事業を実施することによる効果を示します。	
エリア・路線等	●事業の対象となるエリアや路線等を示します。	
実施主体	●事業を実施する主体を示します。	

① 人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通			
①-1	公共交通ネットワークの改善・強化	対応する課題	①②③④⑤⑥⑦
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の公共交通利用での「おでかけ」を実現し、みどり市を訪れる観光客が快適に移動できるように、既存の公共交通の改善・強化し、持続可能な公共交通を実現することを目的とする。 ●既存の公共交通の無駄を省き、効率的な運行と適切な予算配分を実現することを目的とする。 		
背景・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査結果では、市民の移動の8割程度が自動車での移動であり、公共交通が利用されていない。 ●各公共交通の収支率は、年々悪化し個々の公共交通だけの取り組みでは、持続可能な公共交通が維持できない状況となっている。 		
実施時期	●次回協議会までに検討		

①-1-1 4鉄道の維持・連携強化	
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」は、「沿線地域交通リ・デザイン協議会」において今後の鉄道のあり方を検討し、維持・連携強化を図るため、「地域公共交通計画」の策定を予定している。 ●4鉄道は、市民の移動手段としての役割にとどまらず、市の発展に欠かせない公共交通である。今後も第三セクターである「わたらせ渓谷鐵道」をはじめ継続的な支援を行う。 ●4鉄道が連携したイベントや運賃サービスを実施することで、みどり市だけでなく周辺地域の活性化に寄与する取組を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント ・事例：東武鉄道による、「ふらっと両毛 東武フリーパス」
エリア・路線等	●JR 両毛線、東武桐生線、上毛線、わたらせ渓谷線
実施主体	●みどり市、群馬県、鉄道事業者

①-1-2 大間々・笠懸路線バスの改善・見直し	
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●大間々高校生や市外へ通学する高校生が通学時間帯に利用できるように、ダイヤの調整を図る。 ●高校生の多い笠懸南部に路線バスの運行を検討する。 ●「恵愛堂病院」「東邦病院」のバス停については、病院の利用動向に合わせたダイヤの調整を図る。 ●平日・休日で利用実態に差があることから、ダイヤ・停車バス停の差別化を検討する。
エリア・路線等	●大間々・笠懸路線バス
実施主体	●みどり市、委託事業者

①-1-3	東町路線バスの改善・見直し
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●主に観光客に利用され、「富弘美術館」「サンレイク草木」への需要がある。10月から11月にかけて利用者が増加するため、利用動向に合わせて増便などの対応の検討を行う。 ●利用実態の無い区間については、運行継続するか検討を行う。
エリア・路線等	●東町路線バス
実施主体	●みどり市、委託事業者

①-1-4	電話でバスの改善・見直し
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●効率的な配車を実現するため、利用実態に合わせて運行体制等の見直しを行う。 ●あああ
エリア・路線等	●電話でバス
実施主体	●みどり市、委託事業者

①-1-5	駅・バス停の整備
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年3月に「岩宿駅を核とした総合的なまちづくりプラン」を策定し、岩宿駅を拠点としたまちづくりを進めている。駅の整備に伴い、大間々・笠懸路線バスのバス停を、跨線橋を渡る南口から北口へ移設することで、シームレスな乗り換えを実現し、利用者の利便性と快適性の向上が期待される。 ●その他の駅についても、まちづくりや利用者動向に応じて、駅機能の整備を検討する。 ●整備にあたっては、バリアフリー化を基本とし、安全で快適な乗降環境の整備や待合環境の改善を図る。
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●岩宿駅、その他市内の駅 ●市内のバス停
実施主体	●みどり市、交通事業者

①-1-6	ライドシェアの導入検討
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●隣接する桐生市では、タクシー運転手不足への対応として、令和6年11月29日より「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」の導入を開始し、市民の移動手段を確保している。 ●本市においても、生活圏の一体化を図る、運転手不足に対応するため、タクシー事業者・桐生市と連携し「自家用車活用事業（日本版ライドシェア）」の導入を検討する。
エリア・路線等	●市内全域
実施主体	●みどり市、桐生市、タクシー事業者

①-1-7	レンタサイクルの充実
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●市内5か所（みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅）に無料のレンタサイクルを設置し、主に観光客の移動手段として活用されている。 ●さらなる周知・PRを進め、利便性向上を図るため、設置場所の増設や車両の増車など、利用状況に応じて検討する。
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●みどり市観光協会、大間々駅前観光案内所、岩宿博物館、花輪駅、赤城駅 ●その他主要な施設
実施主体	●みどり市、鉄道事業者、民間事業者

①-1-8	わたらせ渓谷鐵道の運行支援
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●わたらせ渓谷鐵道は、桐生駅と間藤駅を結ぶ第三セクターであり、みどり市内には7駅があり、地域住民の生活、観光資源として重要な役割を果たしている。 ●引き続き、安全運行に必要な運営費や維持修繕費に対し、沿線自治体と連携し運行支援を行う。
エリア・路線等	●わたらせ渓谷鐵道
実施主体	●みどり市、わたらせ渓谷鐵道(株)

①-1-9	補助制度の活用
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス、NPOが運行する交通空白地有償運送は、市民・観光客の移動手段として不可欠である。しかし、本市や事業者の運営努力だけでは、路線の維持が困難となっている。 ●持続可能な運行体制を構築するため、地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、維持・改善に取り組む。
エリア・路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス、公共交通空白地有償運送
実施主体	●みどり市、委託事業者、NPO法人

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通		
①-2	交通 DX・GX の推進	対応する課題	①②③④
目的	●デジタル技術を活用した事業改革と環境に配慮した運行を推進し、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。		
背景・必要性	●「みどり市デジタル化推進計画」「みどり市 SDGs 未来都市計画」に基づき、DX・GX を推進しており、持続可能なまちづくりが求められている。		
実施時期	● 次回協議会までに検討		

①-2-1	AI オンデマンド交通システムの効果検証		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●予約に応じた最適ルートの自動運行とスマートフォンアプリの活用により、「予約が取りにくい」問題の解消や利便性の向上を図る。 ●さらに、利用者アンケートやヒアリングを通じて効果を検証し、より高い利便性と効率的な運行を目指す。 		
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●南部地域（大間々・笠懸エリア） ●電話でバス 		
実施主体	●みどり市、委託事業者		

①-2-2	運賃のキャッシュレス化の導入検討		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●令和6年6月に大間々・笠懸路線バスに電子決済端末を導入したが、電子決済端末の利用率は0.5%から4%で推移している。 ●導入によって利便性が向上し、時間短縮に寄与する。また、現金管理の手間が削減され、運営コストの抑制にもつながるため、今後の利用者動向に応じて段階的な導入を検討する。 		
エリア・路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス		
実施主体	●みどり市、交通事業者		

①-2-3	バスロケーションシステムの導入の検討		
概要・効果	●バスの乗り遅れなどを防ぐため、スマートフォン等でバスの現在地を確認できるバスロケーションシステムの導入を検討する。		
エリア・路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話バス		
実施主体	●みどり市、委託事業者		

①-2-4	グリーンスローモビリティの運行		
概要・効果	●		
エリア・路線等	●市内全域		
実施主体	●みどり市、交通事業者、みどり市観光協会		

①-2-5	デジタルサイネージの設置
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の主要駅やバス停留所、商業施設、医療施設などにデジタルサイネージを設置し、利便性の向上と情報発信の強化を図る。リアルタイムの運行情報や遅延通知を提供し、乗客の移動をよりスムーズにするとともに、公共交通の利用メリットを最大化する。 ●設置にあたっては、多言語対応による訪日外国人向けの案内強化や、視認性の高い情報デザインを採用し、より多様な利用者が快適に移動できる環境を実現する。
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●主要な駅・バス停留所 ●商業施設・医療施設
実施主体	●みどり市、交通事業者、民間施設

①-2-6	MaaS システムの導入検討
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●MaaS (Mobility as a Service) システムの導入により、市民や観光客の移動ニーズに対応し、複数の公共交通や移動サービスを最適に組み合わせた検索・予約・決済を一括で行うことが可能となる。さらに、観光や医療など交通以外の分野との連携を強化することで、移動の利便性向上だけでなく、地域の活性化にも貢献する。 ●導入にあたっては、群馬県で運営している「GunMaaS」やみどり市独自の「行政 MaaS※」の導入を検討する。 ※行政 MaaS：庁舎とオンラインで接続されたマルチタスク車両を活用し、行政職員が現地へ移動することなく、各種申請や相談に対応できる移動型行政サービス。住民がアクセスしやすい場所で行政サービスを受けられる。
エリア・路線等	●市内全域
実施主体	●みどり市、委託事業者、交通事業者

①	人が輝くまちづくり ～地域とつなぎ暮らしを支える公共交通		
①-3	利用したくなる仕組みづくり	対応する課題	①②③④⑤⑥⑦
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利便性向上だけでなく、移動の快適性と情報提供の質を向上させ、魅力を発信することで、利用の「きっかけ」を創出し、さらなる利用促進を図ることを目的とする。 		
背景・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●路線バスを利用しない理由として、運行エリアの住民であっても「バスの存在を知らない」や「自家用車を運転するため利用しない」といった要因がある。そのため、情報の周知や公共交通の魅力を発信することが求められている。 ●特に通学時に鉄道を利用しない高校生は、公共交通に対する関心が低い傾向があり、幼少期から公共交通への関心を育むことが求められている。 ● 		
実施時期	●次回協議会までに検討		

①-3-1	公共交通イベントの開催		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の魅力を広く伝え、地域社会との結びつきを強化する。利用促進と認知度向上を図るため、交通機関を活用した体験型イベントや地域住民・観光客向けの特別企画の実施を検討する。 ●バスや鉄道のバックヤードツアー、運転体験会、地域特産品を販売するマルシェの開催などの多彩なプログラムの展開を検討する。スタンプラリーやオンライン参加型のプロモーションを通じて、より多くの人々に公共交通の価値を身近に感じてもらう機会の実施を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例：鉄道事業者による、「ぐんまローカルスタンプラリー」イベント ・事例：上毛電気鉄道(株)による、「デハ101」車両の貸切運転 ・事例：上毛電鉄友の会による、「スタンプラリー」イベント 		
	 <p>図1 ぐんまローカルスタンプラリー</p>	 <p>図2 上毛電鉄友の会企画のスタンプラリー</p>	<p>出典：JR 東日本 HP</p> <p>出典：上毛電鉄友の会 HP</p>
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●各公共交通 ●各駅 		
実施主体	●みどり市、交通事業者、みどり市観光協会		

①-3-2	バス停留所の案内看板デザインの変更
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●バス停留所でバスを待っている時間が「楽しい」と思えるデザインへの変更を第一段階として大間々・笠懸路線バスを対象に行う。 ●バス停留所の案内看板のデザインを刷新することで、利用者の利便性向上と公共交通の魅力向上を図る。視認性の高いデザインの採用や、多言語対応による情報提供の強化を進めることで、誰もが快適に公共交通を利用できる環境を整える。 ●みどり市の特色を活かしたデザイン要素を取り入れることで、公共交通と地域の魅力を一体的に発信し、まちづくりの観点からも貢献する。
エリア・路線等	●大間々・笠懸路線バス
実施主体	●みどり市、委託事業者

①-3-3	運賃補助制度の拡充
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者、障がい者、学生、子育て世帯、観光客など、移動の支援が求められる層に対して補助を行い、公共交通の利用促進と移動負担軽減を図る。 ●移動の利便性を向上させるだけでなく、地域経済の活性化や公共交通の持続可能性確保にも寄与する。
エリア・路線等	●各鉄道、大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス
実施主体	●みどり市

①-3-4	乗り方教室の実施
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利用方法を分かりやすく伝えることで、誰もが安心して公共交通を利用できる環境を整え、利用促進を図る。 ●特に、公共交通の利用経験が少ない高齢者や子ども、訪日外国人などを対象に、バスや鉄道の乗り方、運賃の支払い方法、時刻表の見方、乗り換えのコツなどを解説する。 ●公共交通の利用機会を広げ、移動の自由度を向上させるとともに、利用しやすい交通環境を整備する。
エリア・路線等	●各公共交通
実施主体	●みどり市、交通事業者

①-3-5	広報戦略の改善
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●SNS や公式アプリを通じたリアルタイム情報提供、地域イベントとの連携、視認性の高い広告展開などを進めることで、公共交通の魅力を効果的に伝え、利用促進につなげる。また、多言語対応やアクセシビリティ向上にも重点を置き、より多様な利用者に向けた情報発信の強化を推進する。 ●各公共交通が連携し、統一された情報提供の仕組みを検討する。
エリア・路線等	●各公共交通
実施主体	●交通事業者

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通		
②-1	バリアフリー化の推進	対応する課題	①④⑤
目的	●車両・駅・バス停などのバリアフリー化を進めることで、公共交通の利用における障壁をなくすことを目的とする。		
背景・必要性	●60歳以上で、5年以内に免許返納を検討している人は、バリアフリー化への関心が高い傾向があるが、路線バスをはじめ、十分なバリアフリー対応が進んでいないため、さらなる整備を進め、交通の障壁をなくすことが求められている。		
実施時期	● 次回協議会までに検討		

②-1-1	バリアフリー車両の導入		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な条件の方が快適に公共交通を利用できる環境を整えるため、車両更新の際はバリアフリー対応の車両を導入する。 ●高齢者や障がい者、ベビーカー利用者など、多様な乗客の移動を支援し、公共交通の利便性の向上と持続可能な移動環境の実現に貢献する。 		
エリア・路線等	●大間々・笠懸路線バス、東町路線バス、電話でバス		
実施主体	●みどり市、委託事業者		

②-1-2	駅・バス停の整備【①-1-5 再掲】		
--------------	---------------------------	--	--

②	安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通		
②-2	快適性の向上	対応する課題	①④⑤
目的	●デジタル技術の活用や待合環境の改善を通じて、公共交通の利用をより快適にし、ストレスのない移動を実現することを目的とする。		
背景・必要性	●「バスがいつ乗れるかわからず不安」と感じることや、運賃のキャッシュレス化の遅れなどによって、公共交通の利用にストレスを感じているため、快適性の向上が求められている。		
実施時期	● 次回協議会までに検討		

②-2-1	公共交通オープンデータの整備・活用検討		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●国土交通省では、経路検索に必要な情報の整備を促進するとともに、バス事業者と経路検索事業者等の情報利用者との間で、データの受け渡しが効率的に行われるよう、平成 29 年 3 月に、経路検索に必要な時刻表や運行経路等の静的情報を統一された様式でデータ化する方法を「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」として定めている。 ●「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」の整備を進め、インターネットでの経路検索をはじめ、デジタルサイネージでの運行案内、各種アプリとの連携など活用方法を検討する。 		
エリア・路線等	●各公共交通		
実施主体	●みどり市、交通事業者		

②-2-2	駅・バス停の整備【①-1-5 再掲】
--------------	---------------------------

②-2-3	運賃のキャッシュレス化の導入検討【①-2-2 再掲】
--------------	-----------------------------------

②-2-4	バスロケーションシステムの導入検討【①-2-3 再掲】
--------------	------------------------------------

②-2-5	デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】
--------------	-------------------------------

②-2-6	MaaS システムの導入検討【①-2-6 再掲】
--------------	---------------------------------

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通			
③-1	まちづくりと連携した交通施策の推進	対応する課題	①④⑥
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●「第2次みどり市総合計画」で掲げる将来像「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」の実現に向け、公共交通の分野からまちづくりを推進することを目的とする。 		
背景・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●本市は、市町村合併により「笠懸町」「大間々町」「東町」とそれぞれの地理条件や人口規模が異なるため、立地適正化計画による「コンパクト」な市街地の形成と併せて、各拠点間を繋ぐ「ネットワーク」の維持・形成が必要となる。 ●みどり市観光振興計画と連携し、計画の柱の一つである「街道の文化を生かし、地域間の資源をつなぐ」に寄与する公共交通を実現する必要がある。 		
実施時期	●次回協議会までに検討		

③-1-1 立地適正化計画との連携	
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●立地適正化計画と一体となった施策を実施することで、住民移動の円滑化、地域の活性化を促進する。 ●具体的には、立地適正化計画で位置づけた各拠点をつなぐ路線バス・電話でバスの運行を継続し、市民・観光客の移動を確保することで、生活の質の向上・地域の活性化に寄与する。
エリア・路線等	●全域
実施主体	●みどり市、交通事業者

③-1-2 観光施策との連携	
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●みどり市観光ポータルサイトと連携し、公共交通を利用したアクセス方法や運行状況を公開することで、公共交通利用のハードルを下げる。観光客の移動の周遊性を高め、新規の来訪者やリピーターの増加を促進する。 ●わたらせ渓谷鉄道のサンレイク草木や水沼駅では開発が進み、みどり市・桐生市への来訪者の増加が見込まれる。公共交通での来訪を促進するため、観光協会や交通事業者と連携し、周知・PRを強化する。
エリア・路線等	●全域
実施主体	●みどり市、交通事業者、みどり市観光協会、周辺自治体

③	活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通		
③-2	移動自体を楽しむ仕組みづくり	対応する課題	①④⑤⑥
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通を単なる移動手段とするのではなく、移動そのものを楽しめるようにし、みどり市ならではの特別な移動環境を整えることを目的とする。 ●公共交通とまちなか活性化事業を組み合わせ、地域の活性化を推進することを目的とする。 		
背景・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●来訪者アンケート結果では、みどり市を訪れる目的として「わたらせ渓谷の自然景観を楽しむ」「鉄道を楽しむ」ことが求められている。 ●鉄道や路線バスを楽しみながら移動することで、地域自体の魅力を引き出し、住民や観光客が公共交通を利用する動機となる。 		
実施時期	●次回協議会までに検討		

③-2-1	景観を活かした運行		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●みどり市の美しい景観を最大限に活用し、公共交通の魅力を向上させる。車窓からの風景を楽しめるルート設定や、観光資源と連携した特別運行を実施することで、移動そのものを体験型コンテンツとして提供する。 ●四季折々の自然を楽しめる「景観ルート」の設置、車両デザインの工夫による開放的な視界の確保、沿線の観光施設や名所とのタイアップ企画などを推進する。また、ガイド付きの特別便や、車両内での地域情報発信などを行うことで、単なる移動手段を超えた新しい公共交通の形を創出する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、「トロッコわたらせ渓谷号」「トロッコわっしー号」の運行 ・事例：みどり市観光協会による、「観光周遊バス(グリーンスローモビリティ)」の運行 		
エリア・路線等	●各公共交通		
実施主体	●みどり市、交通事業者、みどり市観光協会		

③-2-2	グリーンスローモビリティの運行		
概要・効果	●みどり市観光協会が所有するグリーンスローモビリティを活用し、既存イベントでの運行に加え、ゆったりとしたスピードとコンパクトな車両という特徴を活かし、街なか周遊ルートの開拓を検討する。		
エリア・路線等	●市内全域		
実施主体	●みどり市、みどり市観光協会		

㊦-2-3	新たな移動サービスの調査・検討
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●大間々のまちなかを周遊する自動運転車や低速電動バスなどを導入するための、実証運行の調査・検討を行う。 ●公共交通だけではなく、地域の活性化に寄与する取組の調査・検討を行う。
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●市内全域
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ●みどり市、みどり市観光協会、交通事業者

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通		
④-1	県・周辺自治体と連携した交通施策の推進	対応する課題	①④⑤⑥
目的	●群馬県及びみどり市と生活圏を共有する桐生市の連携を強化し、地域の活性化を促すことを目的とする。		
背景・必要性	●群馬県主導の「沿線地域交通リ・デザイン推進協議会」において、「上毛電気鉄道」「わたらせ渓谷鐵道」の再構築を目的とした協議が行われており、『地域公共交通計画』の策定を目指している。 ●市民の日常の移動において、桐生市との連携が求められている。		
実施時期	● 次回協議会までに検討		

④-1-1	群馬県との連携強化		
概要・効果	●GunMaaSを活用した取組や公共交通に関するイベントを通じて、群馬県との連携を強化し、地域の活性化に向けた検討を行う。		
エリア・路線等	●		
実施主体	●交通事業者、群馬県、みどり市		

④-1-2	桐生市との連携強化		
概要・効果	●バス交通について、桐生市との乗り入れポイントを拡充し、市民のさらなる利便性向上を図る。 ●将来的には両市での一体的なバス路線体系の構築を目指す。		
エリア・路線等	●		
実施主体	●交通事業者、みどり市、桐生市		

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通		
④-2	地域企業との連携	対応する課題	①④⑥⑦
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通を単なる移動手段として利用するのではなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして活用し、地域の活性化につなげることを目的とする。 ●地域ブランドの認知度向上と公共交通の利便性向上を両立させ、持続可能な社会づくりを推進することを目的とする。 		
背景・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ●わたらせ渓谷鐵道では、運賃外収入としてグッズの販売を行っているが地元企業の PR を同時に行っている。 ●あああ 		
実施時期	●次回協議会までに検討		

④-2-1	地元企業産のグッズの販売		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の公共交通機関と地元企業が連携し、特産品やオリジナルグッズの販売を通じて、地域活性化と公共交通の利用促進を図る。駅やバス停、車両内などのスペースを活用し、観光客や通勤・通学者に向けて地元企業産の魅力ある商品・情報を提供する。 ●オンライン販売や乗車特典の限定アイテム展開を通じて、公共交通の利用価値を高めるとともに、地域経済への貢献を強化する。 ●乗務員確保に向けた <ul style="list-style-type: none"> ・事例：上毛電気鉄道(株)による、 ・事例：わたらせ渓谷鐵道(株)による、地元企業産グッズ等の販売 		
	 <p>図3 「桐生織」による織物鉄印</p> <p>出典：わたらせ渓谷鐵道 HP</p>	 <p>図4 車掌・運転士・車両バッチ</p> <p>出典：上毛電気鐵道 HP</p>	
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ●各公共交通 ●主要な鉄道駅 		
実施主体	●みどり市、交通事業者、みどり市観光協会		

④-2-2	広告協賛事業の導入検討
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道・バス車両や時刻表への広告掲載、停留所のネーミングライツ、車両ラッピングなどの協賛金により、運賃外収入を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例：上毛電気鉄道(株)による、つり革オーナー制度、まくら木オーナー制度 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 5 つり革オーナー制度</p> <p>出典：上毛電気鉄道 HP</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 6 まくら木オーナー制度</p> <p>出典：上毛電気鉄道 HP</p> </div> </div>
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内全域 ● 各公共交通 ● 主要な鉄道駅
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ●

④-2-3	商業施設・医療施設との連携
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通と商業施設・医療施設が連携し、地域住民や訪問者の移動利便性を向上させるとともに、施設利用の利便性を図る。公共交通利用者向けの施設内優待サービスの提供、乗車券と施設利用特典を組み合わせたキャンペーンなどの実施を検討する。
エリア・路線等	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内全域 ● 各公共交通
実施主体	<ul style="list-style-type: none"> ●

④	自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通		
④-3	公共交通の実態の周知	対応する課題	①②③④⑤⑥⑦
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 移動手段を提供するだけでなく、公共交通の現状と将来のあり方を共に考え、利便性の向上とサービス認知度の拡大を図り、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。 		
背景・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の移動の8割程度が、自動車での移動であり、公共交通に対する意識が低く、公共交通が利用されていない。 ● 公共交通を利用する人は、公共交通への意識が高い傾向がある一方で、通学時に鉄道を利用していない高校生は、その意識が低く、将来的に公共交通を利用しなくなる可能性が懸念される。 		
実施時期	● 次回協議会までに検討		

④-3-1	公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施		
概要・効果	<ul style="list-style-type: none"> ● モニタリングを通じて施策の効果を評価し、必要に応じて改善を行うため、利用者数の調査やアンケートを実施し、地域交通のニーズの変化を把握する。 ● 利用実態のない区間やバス停留所について、随時見直しを行うための根拠資料として活用する。 		
エリア・路線等	● 各公共交通		
実施主体	● 各交通事業者		

④-3-2	公共交通イベントの開催【④-3-1 再掲】		
--------------	------------------------------	--	--

④-3-3	広報戦略の改善【④-3-5 再掲】		
--------------	--------------------------	--	--